

## 昭和の南海地震体験談

氏名:南 明治(みなみ あきはる)

生年月日:昭和7年11月3日

地震を体験した場所:田辺市

当時の家族状況:父、母、姉、兄二人、隣家で姉夫婦



### 1) 地震発生時の状況

当時 14 歳、揺れてすぐに飛び起きて、寝巻きのまま裏(線路側の)窓ガラスを開けて、全員で裏山(梅畑)へ避難した。

第一波の前に、兄二人が、正月用の米を、家に取りに行き、又、裏山に戻れた。近所の人40~50人も同じ山に避難した。

### 2) 津波襲来時の状況

2年前に東南海地震で、串本に津波が来たと聞いていた。

その時は(19年12月7日昼)、小学校の校庭で先生に「津波が来るから、すぐに家に帰る様に」と、帰らされたことを思い出した。

この地震時は、真っ暗で何も見えなかった。

<右写真は避難して使った別荘>



### 3) 家族の行動・被害

家族全員、一緒に行動した。二人の兄も、米取って戻って、無事。

### 4) 集落・周囲の被害

現在、ハイツが建っている隣の家2軒流出。天理教の下で、1人溺死、目撃。

天理教の斜め前の、当時田んぼだった所に、家ごと流されてきた知り合いのお祖父さんが20日ほどして瓦礫除けている時、発見された。

市全体で69人死亡。引き上げ援護局の家族の、一家全滅の家が多い。

### 5) 地震・津波後の生活

私の本家の別荘が、避難した裏山の近くの高台にあり、そこで2~3日寝た。山からは皆で降りた、家はガラス散乱して、家の庭に小船が入っていた。畳もすべて駄目、1m60cm床上浸水、(この辺まで、浸水:写真)

片付けは自分達でした。父は被害の大きかった場所、湾側で、鉄工所していた。建物は壊れなかったが、中はめちゃくちゃになっていた。



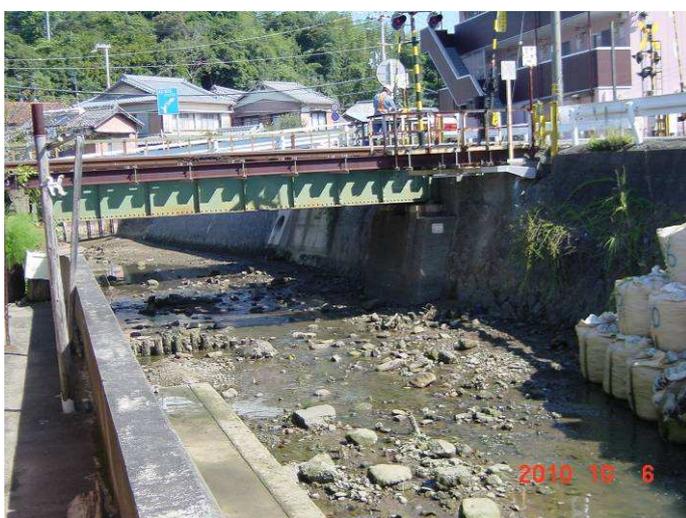
## 6) 次の災害への備え

「一応地震保険って有るけどなあ。通帳や印鑑はひとつにまとめておいとかにゃ、当時何も無い時代でも本当に困った。」父母が私達兄弟の食料調達に、戦中からずっと苦勞してきたのを見ている。

当時、登れた山は、今では完全にネットで、入れなくて通ることが出来なくなっている。

新庄避難所が出来ているが、少し遠いので、単車に妻を乗せて、自分の畑を通過って、裏の天神さんまで走ろうかと思っている。

## 7) その他



線路は、当時の高さ、川もそのまま、線路下の杭は、津波で川の土砂が流出したので国鉄が打った物。毎日、満潮時、土手の草が生えているとこまで潮が来る。秋の大潮の時はこんなものではない。これは干潮時に写したもの。